平成６年度
特別会計決算

	歳入	歳出
国民健康保険特別会計	15億2434万円	13億5198万円
老人保健特別会計	16億9499万円	16億7392万円
下水道事業特別会計	8億5834万円	8億5076万円

国民健康保険

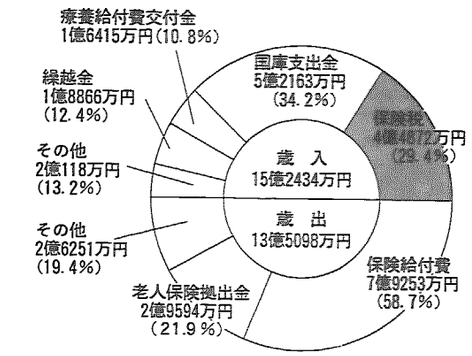
平成６年度の国民健康保険特別会計の決算は、歳入15億２４３４万円、歳出13億５０９８万円で次年度に１億７３３６万円を繰り越しました。

歳入は前年度に比べ、１億９４７０万円、14・６％の増加でした。保険税の現年度分は、調定額４億６２７５万円に対し、４億３９２３万円が町に入り、収納率は94・９％。前年度に比べ９４６万円の減収でした。

歳出は前年度に比べ、２億１０００万円、18・４％増加しました。

平成６年度の平均被保険者数は６１０６人で、前年度より36人減り、また、加入率も０・６％減少しました。

監査委員の決算審査意見は歳入の増加について「療養給付費の増加に伴う国庫支出金と財政調整交付金の増加などが作用したため」と述べ、歳出の増加について「保険給付費と保健事業費の増加が要因」と分析し、「今後も引き続き、啓蒙活動を通して医療費の適正化を図り、適正な財政運営に努められたい」と結んでいます。



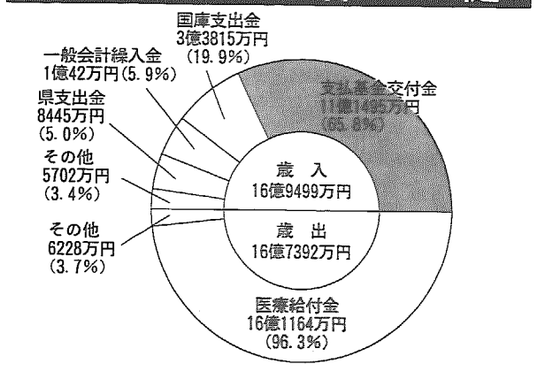
老人保健

老人保健特別会計の決算額は、歳入16億９４９９万円、歳出16億７３９２万円で、２１０７万円を次年度に繰り越しました。内訳はグラフのとおりです。

平成６年度の黒埼町の老人医療費支給対象者は１９６６人（年間平均）で前年度に比べ90人４・８％増えています。

診療費総額は16億２３０３万円で、前年度より４２７５万円、２・７％の伸びです。老人保健対象者の受診率は年間１人当たり22・９回で１人当たりの平均医療費は82万５５５０円、前年度に比べて２・０％の減となっています。

歳入歳出の伸びていることについて、監査委員の決算審査意見は「対象者数や受診件数の増加が要因」と指摘し、一人・一件当たりの医療費の減少は「保健指導などの波及効果」と評価し、「本町の老人医療は、医療環境に恵まれており、老人福祉からも喜ばしいが、今後とも安易な受診・乱診・重複医療による治療効果を阻害しないよう保健指導に努められたい」と述べています。



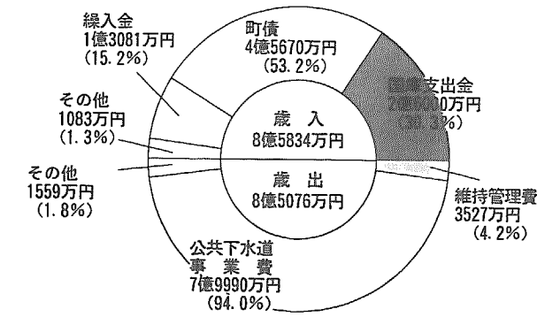
下水道事業

生命の源といわれる水資源と水質保全は快適な生活環境を図る上から、当町は雨水と汚水の分流式による生活排水の浄化のため、西川流域下水道事業に着手、平成６年度は２年度目となりました。

歳入総額は８億５８３４万円で、国庫支出金２億６０００万円の30・３％、町債４億５６７０万円の53・２％、一般会計繰入金１億３０８１万円の15・２％、その他繰越金や利子等の諸収入によって構成されています。

歳出総額は８億５０７６万円で、うち下水道事業費が７億９９９０万円の94％で、その事業量は汚水管渠敷設工事が延長２６１７・９メートルの３億８１２９万円の事業費と雨水管渠敷設工事が延長１４３・９メートルの１億５７０３万円の工事費となりました。

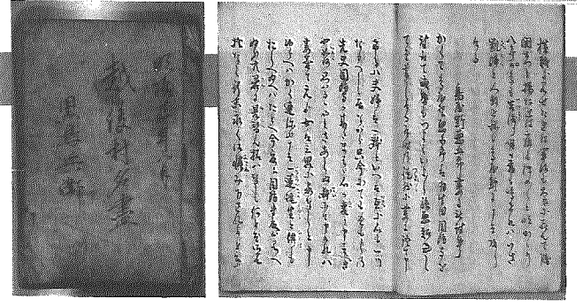
この結果２年間の事業量は汚水管渠敷設工事３１９６・５メートル、雨水管渠敷設工事１４３・９メートルを執行したことを認めました。



黒埼町史のひろば ⑩

黒鳥兵衛伝説は江戸時代中期以降、大きく変わる。

先月号に引き続き、黒鳥兵衛伝説について、町史近世部会長の真水淳さんにお話をお聞きします。今回は、江戸時代中期以降、黒鳥兵衛伝説がもとの形とは大きく変わっていったことについてです。



写真上左／『越後村名尽』明治24年書写の写本の表紙
上右／その内容。鳥屋野悪五郎の名が見える
下／『黒鳥征伐記』写本表紙。『越後村名尽』以降に出た黒鳥兵衛伝説に関する本のうちの一つ（いずれも黒鳥・鷲尾セイ氏所蔵）

黒鳥兵衛伝説が江戸時代中期以降、変化したということですが、どのように変化したのでしょうか。

「江戸時代のほぼ半ばころの安永年間（一七七二～一七八一年）に出された『越後村名尽』という本があります。その本は、当時の黒鳥兵衛の伝説をまとめたものとずっと考えられていたものです。その内容は、黒鳥兵衛を義家の弟・源義綱（加茂次郎）が破る話になっています（本来の伝説は、前回で触れたように、義家自身が黒鳥兵衛を破る話と考えられる）。それと登場人物も増えています。たとえば、鳥屋野悪五郎とか横越軍司といった、明らかに地名にちなんだような人物が多数、出てくるのです。ですが、黒鳥という土地にちなんだ話が出てこないため、黒鳥兵衛という名前になる必然性がないものになっています。

『越後村名尽』は加茂の俳人・左月の創作と考えるべきで、加茂神社とのかかわりから、黒鳥兵衛を攻め滅ぼす役を八幡太郎義家から加茂次郎義綱に変えたのでしょう。

しかし、この話がよくできていたためか、元の伝説より『越後村名尽』の話の方が有力になっていきます。そしてその後は、黒鳥兵衛の話が本として出されるたびに、登場人物が増えていったりしています。さらに明治時代になると、講談としてたくさんの本が出てきます。講談の場合ですと、作者が自分でさらに話をふくらませるということもあったようです」

黒鳥兵衛伝説について、これまでもいろいろ研究があったと思うのですが。

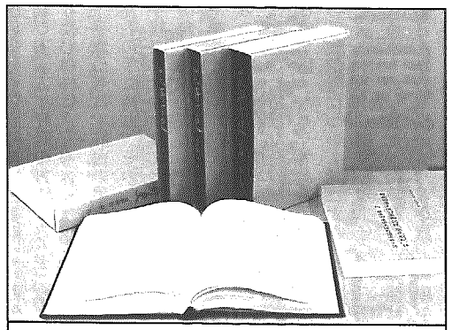
「明治以降、黒鳥兵衛伝説について、いろんな人が研究しています。黒鳥兵衛は実在したのかどうか。実在しなかったとしても、どんな史実がもとになったのか。しかし、問題となるのは、それらの研究で考えられている黒鳥兵衛伝説というのが『越後村名尽』以降の話によっているということです。伝説として研究するのであれば、前回触れたような古い形のものから考えなくてはならないと思います」

では、本来の黒鳥兵衛伝説と『越後村名尽』以降の話との関係は、どのように考えればよいのでしょうか。

「黒鳥兵衛伝説を伝説として考える場合、『越後村名尽』やその後の明治時代の講談などの知識で考えるのはまずいでしょう。確かに話としてはおもしろいものですが。地元・黒鳥などで昔からの言い伝えとされる話にしても『越後村名尽』の話と同じような話になってしまっているのも、そのためでしょうか。伝説自体の研究というなら、古い文書に見られる伝説を拾って、もともとの形で考えないといけないでしょう。

今回の『黒埼町史　資料編２近世』では、黒鳥兵衛伝説の核となる資料は網羅したと思っています。これにより、『越後村名尽』やそれ以降の講談のような話にとらわれずに、伝説の本来の姿を見出していただけると思います。

そして、伝説ができるには何か意味がある、それを考える材料になればと思います」



黒埼町史は『資料編３近代』『資料編４現代』『資料編５自然』の３冊がすでに刊行されています。

『資料編３近代』は明治維新から昭和20年の敗戦までの、黒埼の政治・経済などの資料を収録。897ページで１冊５千円（消費税込み。以下の価格も同じ）。

『資料編４現代』は昭和戦後の黒埼村・町に関する資料を収録。565ページで１冊４千円。

『資料編５自然』は町内の動植物や気象・地質などをオールカラーで紹介。386ページで１冊１万円。

参考資料の『新発田藩主溝口家御記録「歴代廟記」抄』も頒布しています。江戸時代の黒埼町域の多くを統治していた新発田藩の公的年代記録を収録。並装・428ページで１冊３千円。

以上４冊とも役場新館２階の町史編さん室で取り扱っています。

問☎025－377－3832　内線231、233